

# H24-D1-5 21.81~24.47m

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
65	21.81	22.43	10~40°とこれに斜交する40~60°の割れ目が主体で、22.10m~70°ではごく薄く砂状化。22.36m~50°には幅1~2mmの軟質な白色粘土などの挟在物が分布するが、全体的には割れ目に挟在物は分布しない。	21.81	22.43	10~40°とこれに斜交する40~60°の割れ目が主体で、22.10m~70°ではごく薄く砂状化。22.36m~50°には幅1~2mmの軟質な白色粘土などの挟在物が分布するが、全体的には割れ目に挟在物は分布しない。	・表現の適正化(軟弱⇒軟質)	21.81	22.43	21.81~22.43m:傾斜10~40°とこれに斜交する40~60°の割れ目が主体で、22.10mの傾斜70°の割れ目は薄く砂状化し、22.36mの傾斜50°の割れ目には幅1~2mmの軟質な白色粘土などの挟在物が分布するが、全体的には割れ目に挟在物は分布しない。	
66	-	-	-	22.28	22.28	傾斜80°、幅2~3mmでカリ長石の濃集部が脈状に分布。	・カリ長石の濃集部は脈状と異なる状況であるため追記した。	22.28	22.28	22.28m:傾斜80°で幅2~3mmのカリ長石の濃集部の脈が分布する。	
67	22.43	22.91	45°前後の割れ目が主体で、一部これに斜交する10~20°の割れ目と低密着割れ目が分布する。	-	-	-		22.43	22.91	22.43~22.91m:傾斜45°前後の割れ目が主体で、一部これに斜交する10~20°の割れ目と低密着割れ目が分布する。	
68	22.43	22.91	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CH	22.43	22.91	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	・下位と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをIVランクに変更した。 ・コアの形状のランクの変更に伴い、岩級を変更した。	22.43	22.91	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	
69	22.52	22.55	15~20°割れ目ぞいφ10mm前後で細片化。	22.52	22.55	15~20°割れ目ぞいφ10mm前後で細片化。	・表現の適正化(泡い)	22.52	22.55	22.52~22.55m:傾斜15~20°の割れ目ぞいが径10mm前後で細片化する。	
70	22.56	22.56	58°幅1mm石英脈が母岩に密着して連続する。	-	-	-		22.56	22.56	22.56m:傾斜58°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。	
71	22.81	22.81	割れ目、低密着割れ目にごく薄く砂状部を挟む。	22.81	22.81	割れ目、低密着割れ目にごく薄く砂状部を挟む。	・表現の適正化(挟む)	22.81	22.81	22.81~22.81m:割れ目や低密着割れ目にごく薄く砂状部を挟む。	
72	22.91	22.94	(割れ目状態欄)IVランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)βランク (岩級区分欄)CH	22.91	22.94	(割れ目状態欄)IVランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (岩級区分欄)CM	・区間長が10cm未満であるため周囲のランクに含めた。	22.91	22.94	(割れ目状態欄)IVランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (岩級区分欄)CM	
73	22.91	22.94	50~55°割れ目に囲まれ幅20mmが風化で砂状~細片状化。粘土は殆んど含まない(わずかに幅1mm・長さ20mmで軟質な白色粘土が分布)	22.91	22.94	50~55°割れ目に囲まれ幅20mmが風化で砂状~細片状化。粘土は殆んど含まない(わずかに幅1mm・長さ20mmで軟質な白色粘土が分布)	・表現の適正化(軟弱⇒軟質、細片状化⇒細片化) ・文章の適正化(「殆んど含まない」「わずかに」は同義であるため、前者を削除した)	22.91	22.94	22.91~22.94m:傾斜50~55°の割れ目に囲まれ、幅20mmが風化で砂状~細片化する。わずかに幅1mm・長さ20mmの軟質な白色粘土が分布する。	
74	23.94	23.60	縦線で割れ目が少ない(直)。20~30°とこれにほぼ直交する50~60°の割れ目からなり、割れ目挟在物はない。	22.94	23.60	縦線で割れ目が少ない(直)。20~30°とこれにほぼ直交する50~60°の割れ目が分布し、割れ目挟在物はない。	・図記の修正(23.94⇒22.94) ・表現の適正化(ほぼ) ・文章の適正化(割れ目からなり⇒割れ目が分布する)	22.94	23.60	22.94~23.60m:傾斜20~30°とこれにほぼ直交する50~60°の割れ目が分布し、割れ目の挟在物はない。	・記事欄以外から読み取れる硬さやコア形状の情報は記載しない
75	23.45	-	23.45m以深でコア表面は風化でにぶい橙褐色を帯びる。	23.45	-	23.45m以深はコア表面は風化で細状ににぶい橙褐色を帯びる。	・表現の適正化(で⇒は) ・細状に褐色化している旨を追記した	23.45	-	23.45m以深はコア表面は風化で細状ににぶい橙褐色を帯びる。	
76	23.60	23.96	全体が風化でにぶい橙褐色を帯びるが、劣化はない。30~45°とこれに斜交~直交する50°の割れ目からなる。(以下は24m以深のコアで書き加える)	23.60	23.96	全体が風化でにぶい橙褐色を帯びるが、劣化はない。30~45°とこれに斜交~直交する50°の割れ目が分布する。 4m以深は24m以深のコアで書き加える。	・文章の適正化(割れ目からなる⇒割れ目が分布する) ・「(以下は24m以深のコアで書き加える)」は不要な記載であるため削除した	23.60	23.96	23.60~23.96m:傾斜30~45°と、これに斜交~直交する50°の割れ目が分布する。	・風化による褐色化は上記で記載しているため記載しない分布する。
77	23.96	24.47	割れ目が少なく、上端、下端と24.26mに40~50°の割れ目が計3本が主体で、割れ目には挟在物は分布しない。	-	-	-		23.96	24.47	23.96~24.47m:割れ目が少なく、上端、下端と24.26mに傾斜40~50°の割れ目が計3本見られる。割れ目に挟在物は分布しない。	

# H24-D1-5 24.47~31.40m

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
	記事	記事	記事	記事	記事	記事		記事	記事	記事			
												上端深度	下端深度
		記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
78	24.47	25.80	24.47	25.80	24.47	25.80	24.47	25.80	24.47	25.80	24.47~25.80m:傾斜30~50°の割れ目や低密着割れ目が1~6cm間隔でほぼ平行に分布する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
79	25.30	25.32	25.30	25.32	25.30	25.32	25.30	25.32	25.30	25.32	25.30~25.32m:傾斜45°で幅10mm程度が砂状~径5mmに細片化する以外に、割れ目にはほとんど挟在物は分布しない。	-	
80	25.46	25.69	25.46	25.69	25.46	25.69	25.46	25.69	25.46	25.69	(割れ目状感欄)IIランク (コアの形状欄)IVランク	-	
81	25.80	26.95	25.80	26.95	25.80	26.95	25.80	26.95	25.80	26.95	30~50°割れ目とわずかな低密着割れ目がほぼ平行で、10~15cm間隔主体で分布する。一部でこれら30~50°割れ目と斜交する10~50°割れ目も分布し、26.41m~26.47mで両系統の割れ目が交差し、径20~30mmの硬質岩片に細片化するが、砂~粘土化には伴わない。また、割れ目やコア表面の一部は風化で褐色化するが、劣化は伴わない。	25.80~26.95m:傾斜30~50°の割れ目とわずかな低密着割れ目がほぼ平行に10~15cm間隔が主体で分布する。一部でこれらと斜交する10~50°の割れ目も分布し、26.41m~26.47mでは両系統の割れ目が交差し、径20~30mmの硬質岩片に細片化するが、砂~粘土化には伴わない。また、割れ目やコア表面の一部は風化で褐色化するが、劣化は伴わない。	-
82	26.13	26.37	26.13	26.37	26.13	26.37	26.13	26.37	26.13	26.37	(コアの形状欄)IIランク	-	
83	26.95	27.20	26.95	27.20	26.95	27.20	26.95	27.20	26.95	27.20	割れ目間隔3~10cmとやや割れ目が多いが、割れ目挟在物は分布せず。硬さBと堅硬である。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
84	27.05	27.20	27.05	27.20	27.05	27.20	27.05	27.20	27.05	27.20	(コアの形状欄)IVランク	-	
85	27.20	28.48	-	-	-	-	-	-	27.20	28.48	コア長20cm以上が主体で、硬さBと堅硬。0~10°割れ目主体で挟在物も分布しない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
86	27.95	28.05	27.95	28.05	27.95	28.05	27.95	28.05	27.95	28.05	(コアの形状欄)IIランク	-	
87	28.48	30.20	28.48	30.20	28.48	30.20	28.48	30.20	28.48	30.20	40~50°割れ目主体で、ほぼ平行に分布する。一部割れ目や割れ目周辺は風化で褐色化するが、砂状化などの劣化は伴わない。また粘土や粘土層も挟在しない。所々、マンガン鉱染で黒褐色化する。	記事内容がほぼ同じであるため、28.48m以降の記事を含めて記載した	
88	28.66	30.20	28.66	30.20	28.66	30.20	28.66	30.20	28.66	30.20	(コアの形状欄)IVランク	-	
89	28.66	30.77	28.66	30.77	28.66	30.77	28.66	30.77	28.66	30.77	(岩級区分欄)CM	-	
90	29.20	-	-	-	-	-	-	-	29.20	-	29.20m以降では、一部に傾斜40~50°とこれらに斜交~直交する低密着割れ目も含み、ハンマーの打撃で10cm以下に分離することがある。	-	
91	28.48	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28.48m以降は風化でコア表面の一部にはふいご色を呈するが、砂状化などの劣化は硬さBで堅硬である。	上記の記事に含めたため記載しない	
92	30.20	30.35	30.20	30.35	30.20	30.35	30.20	30.35	30.20	30.35	30~40°割れ目が5~20mm間隔で平行に分布し、風化で砂状化を伴い、軟質化する。粘土化や粘土層は分布しない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
93	30.20	30.35	30.20	30.35	30.20	30.35	30.20	30.35	30.20	30.35	(コアの形状欄)IVランク	-	
94	30.35	30.77	30.35	30.77	30.35	30.77	30.35	30.77	30.35	30.77	硬さBで堅硬。割れ目少なく、20~40°主体。割れ目には挟在物は分布しない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない 割れ目が少ない区間のみの記載に変更した	
95	30.35	30.57	30.35	30.57	30.35	30.57	30.35	30.57	30.35	30.57	(コアの形状欄)IVランク	-	
96	30.77	31.57	30.77	31.57	30.77	31.57	30.77	31.57	30.77	31.57	風化でやや軟質化し、硬さDとなる。30~50°割れ目と一部でこれらに斜交~直交する30~50°割れ目も分布する。また、同角度の低密着割れ目も31.40~31.60mを中心に分布する。割れ目自体に薄く砂状化することが多いが、粘土化部や粘土層の分布は少ない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
97	31.06	31.06	31.06	31.06	31.06	31.06	31.06	31.06	31.06	31.06	50°幅1~2mmに風化で黄褐色(10YR 5/6)化した軟弱な粘土層が分布。	-	
98	31.25	31.40	31.25	31.40	31.25	31.40	31.25	31.40	31.25	31.40	(コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)IIランク	-	

# H24-D1-5 31.42~35.08m

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
99	31.42	31.52	31.42m~35°、31.52m~45°の各割れ目下盤側に12mm、30mmが砂状化する。	31.42	31.52	31.42m~35°、31.52m~45°の各割れ目下盤側に幅12mm、幅30mmが砂状化する。	・下盤側が必ずしも下盤とは限らないため下盤に変更した。 ・傾記を修正した(m⇒mm、「幅」の記載漏れ)	31.42	31.52	31.42m~35°、31.52m~45°の各割れ目の下盤側は幅12mm、幅30mmで砂状化する。	-
100	31.44	31.44	40° 割れ目の下盤側10~20mmマンガンを黒褐色化。	31.44	31.44	40° 割れ目の下盤側幅10~20mmマンガンを黒褐色化。	・下盤側が必ずしも下盤とは限らないため下盤に変更した。 ・傾記を修正した(m⇒mm、「幅」の記載漏れ)	31.44	31.44	31.44m:傾斜40°の割れ目の下盤側幅10~20mmがマンガンを黒褐色化する。	-
101	31.57	32.68	風化は弱くなり、硬さC主体。一部で硬さBの硬硬部も含む。30~50° 割れ目主体。	-	-	-	-	31.57	32.68	31.57~32.68m:傾斜30~50°の割れ目を主体とする。	・記事欄以外から読み取れる硬さや風化の情報は記載しない
102	31.97	32.09	(コアの硬さ欄)Cランク	31.97	32.09	(コアの硬さ欄)Bランク	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した	31.97	32.09	(コアの硬さ欄)Bランク	-
103	32.14	32.14	50° 割れ目は幅2~4mm砂状化~径2~3mmに細片化するが、これ以外では砂状化なし。また、粘土化部や粘土脈は分布しない。	32.14	32.14	50° 割れ目は幅2~4mm砂状化~径2~3mmに細片化するが、これ以外では砂状化なし。また、粘土化部や粘土脈は分布しない。	・傾記の修正(「幅」の記載漏れ) ・深度32.14m以外の記載は削除した	32.14	32.14	32.14m:傾斜50°の割れ目治いに幅2~4mmが砂状化~径2~3mmに細片化するが、粘土化部や粘土脈は分布しない。	-
104	32.68	32.76	上下端を45° 割れ目で囲まれ、風化で砂状化する。上端は一部で幅4mmの明黄褐色(10YR 7/6)軟弱粘土を伴うが、粘土は脈としての連続性はない。	32.68	32.76	上下端を45° 割れ目で囲まれ、風化で砂状化する。上端は一部で幅4mmの明黄褐色(10YR 7/6)軟弱粘土を伴うが、粘土は脈としての連続性はない。	・表現の適正化(軟弱⇒軟質)	32.68	32.76	32.68~32.76m:上下端を傾斜45°の割れ目で囲まれ、風化で砂状化する。上端は一部で幅4mmの軟質明黄褐色粘土を伴うが、粘土は連続しない。	-
105	32.76	33.96	硬さBと硬硬であるが、割れ目が多く、一部で砂状化部を挟む。割れ目は40~70°が主体で、一部にこれに斜交~直交する10~40°も分布する。また、同角の低密着割れ目も33.40~33.60mを中心に分布する。	32.76	33.96	硬さBと硬硬であるが、割れ目が多く、一部で砂状化部を挟む。割れ目は40~70°が主体で、一部にこれに斜交~直交する10~40°も分布する。また、同角の低密着割れ目も33.40~33.60mに多く分布する。	・表現の適正化(含む、同角度) ・文章の適正化(中心に⇒多く)	32.76	33.96	32.76~33.96m:割れ目が多く、一部で砂状化部を挟む。傾斜40~70°の割れ目が主体で、一部にこれに斜交~直交する10~40°の割れ目も分布する。また、同角の低密着割れ目も33.40~33.60mに多く分布する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
106	33.80	33.80	50° はせん断性割れ目で、交差する25° 割れ目を切っている(変位量15mm右ズレ)。	33.80	33.80	50° のせん断性割れ目は、交差する25° 割れ目を止めている。切っている(変位量15mm右ズレ)。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・25°の切られているとした割れ目は、姿勢が異なり、一連の割れ目ではないため「切っている」を「止めている」に変更し、変位量についての記載を削除した。 ・割れ目及び周辺状況について追記した。 ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	33.80	33.80	33.80m:傾斜50°の割れ目は、交差する傾斜25°の割れ目を止めている。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
107	33.86	33.86	25° 幅0.5mmの石英脈が母岩に密着して連続。	-	-	-	-	33.86	33.86	33.86m:傾斜25°で幅0.5mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	-
108	33.96	33.96	55° 割れ目上盤側幅10~20mm軽微なマンガンを染受け、下盤側はやや軟質化(D)	33.96	33.96	55° 割れ目上盤側幅10~20mm軽微なマンガンを染受け、下盤側はやや軟質化(D)	・上盤側が必ずしも上盤とは限らないため上盤に変更した。下盤も同様。 ・表現の適正化(やや)	33.96	33.96	33.96m:傾斜55°の割れ目の上盤側は幅10~20mmで弱くマンガンを染を受け、下盤側はやや軟質化する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
109	33.96	35.08	35.08m以降は風化で割れ目の多くは割れ目治いに砂状化し、幅1mm前後の軟弱な白色~明黄褐色(10YR 6/6)の粘土脈を挟むことが多い。35.08m以降の割れ目は一部消滅し、不明瞭であるが、大半は明瞭に残留している。20~40°が主体で、これらに斜交する40~70°の割れ目も分布する。35.05m~50°幅4mmの軟弱な明赤灰(2.5YR 7/2)粘土脈が分布する。	33.96	35.08	35.08m以降は風化で割れ目の多くは割れ目治いに砂状化し、幅1mm前後の軟弱な白色~明黄褐色(10YR 6/6)の粘土脈を挟むことが多い。35.08m以降の割れ目は一部消滅し、不明瞭であるが、大半は明瞭に残留している。20~40°が主体で、これらに斜交する40~70°の割れ目も分布する。35.05m~50°幅4mmの軟弱な明赤灰色(2.5YR 7/2)粘土脈が分布する。	・表現の適正化(含む、治い、軟弱⇒軟質) ・傾記の修正(「色」の記載漏れ) ・35.08m以降の記載がなかったため下端深度を変更し、「35.08m以降」を削除した	33.96	35.08	33.96~35.08m:風化で、多くの割れ目治いは砂状化し、幅1mm前後の軟弱な白色~明黄褐色の粘土脈を挟むことが多い。一部の割れ目は消滅し、不明瞭であるが、大半は明瞭に残留する。傾斜20~40°の割れ目が主体で、これらに斜交する40~70°の割れ目も分布する。35.05mに傾斜50°で幅4mmの軟弱な明赤灰色の粘土脈を挟む。	-
110	35.00	35.08	(変質欄)3ランク	35.00	35.08	(変質欄)3ランク	・上段と同様な変質の程度であるため変質のランクを3ランクに変更した	35.00	35.08	(変質欄)3ランク	-

# H24-D1-5 35.08~38.71m

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードから記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードから記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)		
	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由		選定した記事内容				
							上端深度		下端深度	上端深度
	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	選定した記事内容					
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードから記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
111	35.08	-	35.08	36.00	35.08m以深は、風化は弱くなり、硬さC主体であるが、割れ目の多くは砂状化したり、径5~10mmで細片化する。粘土化部や粘土脈は分布しない。10~40°割れ目と、これらに斜交する40~80°割れ目からなり同角の低密着割れ目も多く分布する。	35.08m以深は、風化は弱くなり、硬さC主体であるが、割れ目の多くは砂状化したり、径5~10mmで細片化する。粘土化部や粘土脈は分布しない。10~40°割れ目と、これらに斜交する40~80°割れ目からなり同角の低密着割れ目も多く分布する。	35.08	36.00	35.08~36.00m: 割れ目の多くは砂状化したり、径5~10mmに細片化するが、粘土化部や粘土脈は分布しない。傾斜10~40°の割れ目と、これらに斜交する40~80°の割れ目からなり、同傾斜の低密着割れ目も多く分布する。	記事欄以外から読み取れる硬さや風化の情報は記載しない
112	35.25	35.25	35.25	35.25	50°割れ目沿い幅10mm淡緑灰色化(緑泥石化)、φ0.1mm程度と微細な金属鉱物が多数晶出している。	50°割れ目沿い幅10mm淡緑灰色化(緑泥石化)、φ0.1mm程度と微細な白雲母が多数晶出している。	35.25	35.25	35.25m: 傾斜50°の割れ目沿いに幅10mmが緑泥石化により淡緑灰色化し、径0.1mm程度の微細な白雲母が多数晶出する。	-
113	35.78	35.90	35.78	35.90	割れ目~低密着割れ目沿いに軽微にマンガン鉱染を受ける。	割れ目~低密着割れ目沿いに軽微にマンガン鉱染を受ける。	35.78	35.90	35.78~35.90m: 割れ目や低密着割れ目沿いに弱くマンガン鉱染を受ける。	-
114	35.97	35.97	35.97	35.97	60°はせん断性割れ目で、交差する55°割れ目を切っている(変位量20mmの右ズレ)。厚さ2~3mmのφ1~2mm細片混りの黄褐色(10YR 5/6)粘土脈を挟む。	60°のせん断性割れ目は、交差する55°割れ目を切っている。切っている(変位量20mmの右ズレ)。厚さ2~3mmのφ1~2mm細片混りの黄褐色(10YR 5/6)粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	35.97	35.97	35.97m: 傾斜60°の割れ目は、交差する傾斜55°の割れ目を止めている。幅2~3mmで径1~2mmの細片混りの黄褐色粘土脈を挟む。割れ目周辺には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	記事欄以外から読み取れる硬さや風化の情報は記載しない
115	36.00	36.70	36.00	36.70	(コアの形状欄)Vランク	(コアの形状欄)Vランク	36.00	36.70	(コアの形状欄)Vランク	-
116	36.00	36.70	36.00	36.70	風化で軟化する硬さD主体である。割れ目沿いやコア表面の一部が砂状化する。粘土化部や粘土脈の分布は少ないが、36.50~36.70m間には幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を多く挟む。割れ目は40~60°とこれらに交差する20~30°割れ目、低密着割れ目が多いが、後者は消滅しかかっているものもある。	風化で軟化する硬さD主体である。割れ目沿いやコア表面の一部が砂状化する。粘土化部や粘土脈の分布は少ないが、36.50~36.60m間には幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を多く挟む。割れ目は40~60°とこれらに交差する20~30°割れ目、低密着割れ目が多いが、後者では消滅しかかっているものもある。	36.00	36.70	36.00~36.70m: 割れ目沿いやコア表面の一部が砂状化する。粘土化部や粘土脈の分布は少ないが、36.50~36.60m間には幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を多く挟む。割れ目は傾斜40~60°とこれらに交差する20~30°の割れ目や低密着割れ目が多いが、後者は消滅しかかっているものもある。	記事欄以外から読み取れる硬さや風化の情報は記載しない
117	36.70	37.17	36.70	37.17	(コアの形状欄)Vランク	(コアの形状欄)Vランク	36.70	37.17	(コアの形状欄)Vランク	-
118	36.70	38.73	36.70	38.71	硬さCが主体であるが、一部で風化により軟化した硬さDも含まれている。硬さD区間は、37.17~37.59mと38.61~38.71mで、前者は50~70°とこれらに斜交する20~30°割れ目とφ10~30mmに岩片化する。粘土化部や粘土脈は分布しない。後者は、岩片自身は硬さCであるが、70°と20~40°割れ目が交差し、φ10~20mm岩片に細片化している。硬さC区間では、60~70°割れ目と、これらに斜交する20~50°割れ目が主体で割れ目沿いの砂状化は殆どなく、粘土脈も挟まない。	硬さCが主体であるが、一部で風化により軟化した硬さDも含まれている。硬さD区間は、37.17~37.59mと38.61~38.71mで、前者は50~70°とこれらに斜交する20~30°割れ目とφ10~30mmに岩片化する。粘土化部や粘土脈は分布しない。後者は、岩片自身は硬さCであるが、70°と20~40°割れ目が交差し、φ10~20mm岩片に細片化している。硬さC区間では、60~70°割れ目と、これらに斜交する20~50°割れ目が主体で割れ目沿いの砂状化は殆どなく、粘土脈も挟まない。	36.70	38.71	36.70~38.71m: 傾斜60~70°の割れ目と、これらに斜交する20~50°の割れ目が主体で、割れ目沿いの砂状化は殆どなく、粘土脈も挟まない。ただし、一部で風化により軟化した。37.17~37.59m間は、傾斜50~70°とこれらに斜交する20~30°の割れ目で径10~30mmに岩片化する。38.61~38.71m間は、傾斜70°と20~40°の割れ目が交差し、径10~20mmの岩片に細片化する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
119	-	-	37.72	37.72	傾斜68°、幅1mmの灰白色粘土を挟む。周辺は幅5mmで灰オリープ色を呈する。	傾斜68°、幅1mmの灰白色粘土を挟む。周辺は幅5mmで灰オリープ色を呈する。	37.72	37.72	37.72m: 傾斜68°で幅1mmの灰白色粘土を挟む。周辺は幅5mmで灰オリープ色を呈する。	-
120	37.72	38.50	37.72	38.50	(コアの形状欄)Vランク	(コアの形状欄)Vランク	37.72	38.50	(コアの形状欄)Vランク	-
121	-	-	37.85	37.85	傾斜68°の割れ目沿いに幅10mm以下で淡緑灰色を呈する。	傾斜68°の割れ目沿いに幅10mm以下で淡緑灰色を呈する。	37.85	37.85	37.85m: 傾斜68°の割れ目沿いに幅10mm以下で淡緑灰色を呈する。	-
122	38.00	38.13	-	-	60~70°と30~50°割れ目が交差し、φ10~40mmの硬さC、ないし、Bの岩片に隣接している。	-	38.00	38.13	38.00~38.13m: 傾斜60~70°と30~50°の割れ目が交差し、径10~40mmの岩片状を呈する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
123	38.13	38.61	38.13	38.71	一部硬さBの硬硬部も含み、60~70°割れ目や低密着割れ目、母岩に密着した幅1~2mm石英脈が平行に分布する。	一部硬さBの硬硬部も含み、60~70°割れ目や低密着割れ目、母岩に密着した幅1~2mm石英脈が平行に分布する。	38.13	38.71	38.13~38.71m: 一部に硬硬部を含む。傾斜60~70°の割れ目や低密着割れ目、母岩に密着した幅1~2mmの石英脈が平行に分布する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
124	38.61	38.71	38.61	38.71	(コアの硬さ欄)Dランク (風化欄)Aランク	(コアの硬さ欄)Dランク (風化欄)Aランク	38.61	38.71	(コアの硬さ欄)Dランク (風化欄)Aランク	-

# H24-D1-5 38.71~42.05m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	記事		記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)			選定した記事内容			
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度		
125	38.73	38.82	上端は礫状コアのため不明、下端は45°の直線的でシャープな割れ目で、その上端の28.80m以上では砂状化と幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土脈を多く伴い劣化している。	38.71	38.79	上端は礫状コアのため不明、下端は45°の直線的でシャープな割れ目で、それ以上は砂状化と幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土脈を多く伴い劣化している。	38.71	38.79	38.71~38.79m:上端は礫状コアのため不明、下端は傾斜45°の直線的でシャープな割れ目で、この間は砂状化と幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土脈を多く伴い、劣化する。
126	38.73	38.82	(コアの硬さ欄)Cランク	38.71	38.79	(コアの硬さ欄)Eランク	38.71	38.79	(コアの硬さ欄)Eランク
127	38.79	38.82	(風化欄)δランク	38.79	38.82	(風化欄)γランク	38.79	38.82	(風化欄)γランク
128	38.82	40.73	硬さC主体で、39.49~39.64mに風化で軟化した硬さDを含む。40~70°割れ目、低密着割れ目が主体で、40.00m以上では10~20°も分布する。割れ目の一部は薄く砂状化するものも含むが、粘土脈や粘土脈は殆んど分布しない。ただし、硬さDの39.49~39.64mでは上端50°、下端60°割れ目に囲まれ区間内の割れ目ぞいに砂状化が進む部分もある。割れ目の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。	38.79	40.73	硬さC主体で、39.49~39.64mに風化で軟化した硬さDを含む。40~70°割れ目、低密着割れ目が主体で、40.00m以上では10~20°も分布する。割れ目の一部は薄く砂状化するものも含むが、粘土脈や粘土脈は殆んど分布しない。ただし、硬さDの39.49~39.64mでは上端50°、下端60°割れ目に囲まれ区間内の割れ目ぞいに砂状化が進む部分もある。割れ目の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。	38.79	40.73	38.79~40.73m:傾斜40~70°の割れ目や低密着割れ目が主体で、40.00m以上では傾斜10~20°のものも分布する。割れ目の一部は薄く砂状化するが、粘土脈や粘土脈は殆んど分布しない。ただし、39.49~39.64mでは上端50°、下端60°の割れ目に囲まれ、風化で軟質化し、割れ目ぞいに砂状化が進む部分もある。割れ目の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。
129	39.15	39.49	(コアの形状欄)Vランク	39.15	39.49	(コアの形状欄)IVランク	39.15	39.49	(コアの形状欄)IVランク
130	39.64	40.51	(コアの形状欄)Vランク	39.64	40.51	(コアの形状欄)IVランク	39.64	40.51	(コアの形状欄)IVランク
131	40.12	40.12	57°はせん断性割れ目で、交差する40°割れ目を切っている(変位量6mm右ズレ)	40.12	40.12	57°のせん断性割れ目は、交差する40°割れ目を止めている。切っかかりの変位量6mm右ズレの割れ目には挟在物は認められず、割れ目周辺の岩質には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	40.12	40.12	40.12m:傾斜57°の割れ目は、交差する傾斜40°の割れ目を止めている。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩質には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
132	40.23	40.23	54°幅0.5~1mmで母岩に密着して石英脈が連続する。	-	-	-	40.23	40.23	40.23m:傾斜54°で幅0.5~1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。
133	40.52	40.52	60°はせん断性割れ目で交差する20°割れ目を切っている(変位量6mm左ズレ)	40.52	40.52	60°はせん断性割れ目で交差する20°割れ目を切っている(変位量6mm左ズレ)	-	-	-
134	40.73	40.85	上端55°、下端60°割れ目に囲まれて砂状化。割れ目方向に幅2~3mmの軟弱な灰白~灰赤色(2.5YR 6/2)粘土脈を伴う。	40.73	40.85	上端55°、下端60°割れ目に囲まれて砂状化~マンガン汚染を伴う礫状化。割れ目方向に幅2~3mmの軟弱な灰白~灰赤色(2.5YR 6/2)粘土脈を伴う。	40.73	40.85	40.73~40.85m:上端55°、下端60°の割れ目に囲まれて砂状化~マンガン汚染を伴う礫状化を呈する。割れ目方向に幅2~3mmの軟弱な灰白~灰赤色の粘土脈を伴う。
135	40.85	41.08	50~60°割れ目が10~30mm間隔で平行に分布。割れ目ぞいに風化が進み全体が軟質化する。一部でマンガン鉱染を伴う。	40.85	41.08	50~60°割れ目が10~30mm間隔で平行に分布。割れ目ぞいに風化が進み全体が軟質化する。一部でマンガン鉱染を伴う。	40.85	41.08	40.85~41.08m:傾斜50~60°の割れ目が10~30mm間隔で平行に分布する。割れ目ぞいに風化が進み、全体が軟質化する。一部でマンガン鉱染を伴う。
136	41.08	41.49	硬さBと硬塊で、10~30°割れ目と一部で同角度の低密着割れ目伴う。両者とも挟在物は挟まない。	41.08	41.49	硬さBと硬塊で、10~30°割れ目と一部で同角度の低密着割れ目伴う。両者とも挟在物は挟まない。	41.08	41.49	41.08~41.49m:傾斜10~30°の割れ目と一部で同角度の低密着割れ目が分布する。両者とも挟在物は挟まない。
137	41.49	42.23	10~30°割れ目、低密着割れ目主体で、一部でこれらに斜交~直交する50~70°ものが分布。交差部のうち、42.15m付近では径5~10mmに細片化する。	-	-	-	41.49	42.23	41.49~42.23m:傾斜10~30°の割れ目や低密着割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する50~70°のものが分布する。交差部のうち、42.15m付近では径5~10mmに細片化する。
138	42.05	-	42.05m以深では幅1mm以下の軟弱な白色粘土脈をはさむ。	42.05	-	42.05m以深では幅1mm以下の軟弱な白色粘土脈を挟む。	42.05	-	42.05m以深では幅1mm以下の軟弱な白色粘土脈を挟む。

# H24-D1-5 42.23~47.20m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)	
	記事	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	記事 (変更していないものは「」で表示)		記事を削除・変更・追記した理由	記事		記事
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
139	42.23	42.74	幅1mm前後の石英脈が割れ目と平行して多数分布。コア自身も一部珪化し硬質化している。50~60° 割れ目が平行に分布。マンガン汚染が目立つ。	42.23	42.74	幅1mm前後の石英脈が割れ目と平行して多数分布。コア自身も一部珪化し硬質化している。50~60° 割れ目が平行に分布。マンガン汚染が目立つ。	42.23	42.74	42.23~42.74m:幅1mm前後の石英脈が割れ目と平行して多数分布する。コア自身も一部珪化し硬質化する。傾斜50~60° の割れ目が平行に分布し、マンガン汚染が目立つ。
140	42.52	42.52	55° 割れ目の一部は幅2~4mmで砂状。ないし、φ2~3mmに細片化するが、粘土は含まれないが、マンガン鉱染で一部黒褐色化する。	42.52	42.52	55° 割れ目の一部は幅2~4mmで砂状。ないし、φ2~3mmに細片化するが、粘土は含まれないが、マンガン鉱染で一部黒褐色化する。	42.52	42.52	42.52m:傾斜55° の割れ目の一部が幅2~4mmで砂状。ないし、φ2~3mmに細片化する。粘土は含まれないが、マンガン鉱染で一部黒褐色化する。
141	42.74	43.25	風化により、割れ目の一部は消滅ないし消滅しかかっている。残存する割れ目は50~60° 主体である。粘土42.85m~40° 傾1mm、43.21m~30° 傾1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。粘土化部は粘土脈は分布しない。43.03m傾斜64°、幅2~4mmの灰白色粘土を挟む。43.03~43.15m間は微細な割れ目にマンガンを伴う。	42.74	43.25	風化により、割れ目の一部は消滅ないし消滅しかかっている。残存する割れ目は50~60° 主体である。粘土42.85m~40° 傾1mm、43.21m~30° 傾1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。粘土化部は粘土脈は分布しない。43.03m傾斜64°、幅2~4mmの灰白色粘土を挟む。43.03~43.15m間は微細な割れ目にマンガンを伴う。	42.74	43.25	42.74~43.25m:風化で割れ目の一部は消滅ないし消滅しかかっている。残存する割れ目は傾斜50~60° が主体である。42.85mに傾斜40°、43.21mに傾斜30° で幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。43.03m:傾斜64° で幅2~4mmの灰白色粘土を挟む。43.03~43.15m:微細な割れ目にマンガンを伴う。
142	42.74	43.25	(変質欄)2ランク	42.74	43.25	(変質欄)3ランク	42.74	43.25	(変質欄)3ランク
143	43.25	45.09	風化と変質で著しく軟化する硬さが主体であるが、部分的に硬さの岩片が残存する。原岩組織は残存するが、割れ目はほぼ消滅している。残りに幅1~3mmの軟質な灰白色粘土を挟む。ないし、網状に含んでいる。	43.25	45.09	風化と変質で著しく軟化する硬さが主体であるが、部分的に硬さの岩片が残存する。原岩組織は残存するが、割れ目はほぼ消滅している。残りに幅1~3mmの軟質な灰白色粘土を挟む。ないし、網状に含んでいる。	43.25	45.09	43.25~45.09m:風化と変質で著しく軟化するが、部分的に硬さ「D」の岩片が残存する。原岩組織は残存するが、割れ目はほぼ消滅する。所々、幅1~3mmの軟質な灰白色粘土を挟む。ないし、網状に含む。
144	-	-	-	43.58	43.76	マンガン汚染が顕著で、一部、径2~30mmに岩片化している。	43.58	43.76	43.58~43.76m:マンガン汚染が顕著で、一部、径2~30mmに岩片化する。
145	43.80	43.80	60° はせん断性割れ目で、上盤側に分布する複数の粘土脈が切られている(変質量不明)	43.80	43.80	60° のせん断性割れ目は、上盤側に分布する複数の粘土脈を止めている。切られている(変質量不明)は、割れ目は幅0.5mm以下の不連続な灰白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	43.80	43.80	43.80m:傾斜60° の割れ目は、上盤側に分布する複数の粘土脈を止めている。割れ目には幅0.5mm以下の不連続な灰白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。
146	44.00	45.09	(変質欄)3ランク	44.00	45.09	(変質欄)4ランク	44.00	45.09	(変質欄)4ランク
147	44.30	44.94	硬さDの岩片も多く含む。	-	-	-	44.30	44.94	44.30~44.94m:硬さ「D」の岩片を多く含む。
148	45.09	45.82	風化により軟化している。30~50° 割れ目が主体であるが、割れ目沿いに砂状化する。粘土脈は少ないが、45.54m~55° 傾1~2mmの黄褐色粘土脈を挟む。	45.09	45.82	風化により軟化している。30~50° 割れ目が主体であるが、割れ目沿いに砂状化する。粘土脈は少ないが、45.54m~55° 傾1~2mmの黄褐色粘土脈を挟む。	45.09	45.82	45.09~45.82m:風化で軟質化する。傾斜30~50° の割れ目が主体で、割れ目沿いに砂状化する。粘土脈は少ない。45.54m:傾斜55° で幅1~2mmの黄褐色粘土脈を挟む。
149	45.82	45.89	上端58°、下端55° の直線的でシャープな割れ目に囲まれ、灰白~灰黄色粘土とφ5~10mmの一部粘土化、一部硬さDのCg岩片からなる粘土帯に岩片状の変質部。一部、マンガン汚染が顕著で幅2~15mmの岩片を25%程度含む。	45.82	45.89	上端58°、下端55° の直線的でシャープな割れ目に囲まれ、灰白~灰黄色粘土とφ5~10mmの一部粘土化、一部硬さDのCg岩片からなる粘土帯に岩片状の変質部。一部、マンガン汚染が顕著で幅2~15mmの岩片を25%程度含む。	45.82	45.89	45.82~45.89m:上端58°、下端55° の直線的でシャープな割れ目に囲まれ、灰白~灰黄色粘土と径φ5~10mmの一部粘土化、一部硬さ「D」の花崗岩の岩片からなる粘土帯に岩片状の変質部。一部、マンガン汚染が顕著で幅2~15mmの岩片を25%程度含む。
150	45.89	47.47	風化により一部の割れ目は消滅、ないし、消滅しかかっている。残存する割れ目は60~70° 主体で、割れ目沿いに砂状化することが多い。粘土脈の分布は少ないが、46.00~46.20m間では幅1mm前後の軟質な白色粘土が目立つが、粘土脈としての連続性はない。部分的に軽微なマンガン鉱染を受ける。	45.89	47.47	風化により一部の割れ目は消滅、ないし、消滅しかかっている。残存する割れ目は60~70° 主体で、割れ目沿いに砂状化することが多い。粘土脈の分布は少ないが、46.00~46.20m間では幅1mm前後の軟質な白色粘土が目立つが、粘土脈としての連続性はない。部分的に軽微なマンガン鉱染を受ける。	45.89	47.47	45.89~47.47m:風化により一部の割れ目は消滅、ないし、消滅しかかっている。残存する割れ目は傾斜60~70° が主体で、割れ目沿いに砂状化することが多い。粘土脈の分布は少ない。46.00~46.20m間では幅1mm前後の軟質な白色粘土が目立つが、粘土脈としての連続性はない。部分的に軽微なマンガン鉱染を受ける。
151	46.73	47.12	(コアの形状欄)IVランク	46.73	47.12	(コアの形状欄)IVランク	46.73	47.12	(コアの形状欄)IVランク
152	47.20	47.20	50° 割れ目は幅4~7mmでφ2mm石英粒と軟質な白色粘土を挟む。	47.20	47.20	50° 割れ目は幅4~7mmでφ2mm石英粒と軟質な白色粘土を挟む。	47.20	47.20	47.20m:傾斜50° の割れ目は幅4~7mmでφ2mmの石英粒と軟質な白色粘土を挟む。
153	47.20	-	47.20m以深では、50° 前後の割れ目、低密度割れ目が1~2cm間隔で分布し、殆んど幅0.5~2mmの軟質な白色粘土が付着する。	47.20	-	47.20m以深では、50° 前後の割れ目、低密度割れ目が1~2cm間隔で分布し、殆んど幅0.5~2mmの軟質な白色粘土が付着する。	47.20	-	47.20m以深では、傾斜50° 前後の割れ目や低密度割れ目が1~2cm間隔で分布し、その殆んどに幅0.5~2mmの軟質な白色粘土が付着する。

H24-D1-5 47.20~48.30m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)	
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「J」で表示)	上端深度	下端深度	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			適正化した記事内容	
			(岩級区分) CL			(岩級区分) D			(岩級区分) D	
154	47.20	47.89	破砕帯(D-1破砕帯)	47.20	47.89	破砕帯(D-1破砕帯)	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・破砕帯名は評価であるため削除した	47.20	47.89	
155	47.47	47.89	Hc-1(主せん断面・47.47m) 上端65° 下端65° で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒を少量含む灰褐色(7.5YR 5/2)の軟質粘土。厚さは3~6mm。	47.47	47.89	Hc-1(最新活動面・47.47m) 上端65° 下端65° で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒を少量含む灰褐色(7.5YR 5/2)の軟質粘土。厚さは3~6mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・最新活動面という用語に統一 ・表現の適正化(軟質⇒軟質) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	47.47	47.89	●47.47~47.89m:破砕部 47.47~47.48m:粘土状部(Hc-1) 径65°で直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。軟質。灰褐色を呈する。幅3~6mm。 47.48~47.66m:粘土質礫状部(Hb) 上端65°で直線的にシャープに連続。下端は不明瞭で漸移的である。径2~3mmの石英粒と径5~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰黄色を呈する。石英粒と岩片の多くはマンガン鉱染で黒褐色化する。幅10mm(65°)。 47.66~47.86m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端は不明瞭で漸移的に、下端63°で直線的にシャープに連続。径10~40mmの一部粘土化、一部硬さ「E」ないし、「D」の岩片主体で、岩片間の基質は灰黄~灰白色に粘土化する。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。全体は灰黄~灰白色を呈する。幅90mm(63°)。 47.86~47.89m:粘土質礫状部(Hb) 上端63° 下端60°でともに直線的にシャープに連続。径2~10mmの石英粒を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅15mm(60°)。
156	47.47	47.48	Hb 上端65° 下端不明瞭で、上端は直線的でシャープ、下端は漸移的である。φ2~3mm石英粒とφ5~10mmの大半が粘土化したGo岩片を含む軟質な硬質粘土で、粘土は灰黄色(2.5Y 7/2)。石英粒と岩片の多くはマンガン鉱染で黒褐色化する。厚さは67mm(68°)。	47.47	47.48	Hb 上端65° 下端不明瞭で、上端は直線的でシャープ、下端は漸移的である。φ2~3mm石英粒とφ5~10mmの大半が粘土化したGo岩片を含む軟質な粘土質礫状部で灰黄色(2.5Y 7/2)。石英粒と岩片の多くはマンガン鉱染で黒褐色化する。厚さは67mm(68°)。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・標主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・表現の適正化(軟質⇒軟質) ・細粒部の連続性・直線性・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	47.47	47.89	
157	47.48	47.66	Hj 上端不明瞭、下端63°で、下端は直線的でシャープに連続。φ10~40mmの一部粘土化、一部硬さE、ないし、Dの岩片主体で、岩片間の基質は灰黄色~灰白色に粘土化する。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。全体的には粘土混じり岩片状で、色調は灰黄~黒褐色である。厚さは90mm(63°)。	47.48	47.66	Hj 上端不明瞭、下端63°で、下端は直線的でシャープに連続。φ10~40mmの一部粘土化、一部硬さE、ないし、Dの岩片主体で、岩片間の基質は灰黄色~灰白色に粘土化する。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。全体的には粘土混じり岩片状で、色調は灰黄~灰白色である。厚さは90mm(63°)。 やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・コアに合わせて全体的な色調を変更した ・理数、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(混じり)	47.47	47.89	
158	47.66	47.86	Hc-2 上端63° 下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ2~10mmの石英粒を多く含む灰白色の軟質粘土で、厚さは15mm(60°)。	47.66	47.86	Hc 上端63° 下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ2~10mmの石英粒を多く含む灰白色の軟質粘土質礫状部で、厚さは15mm(60°)。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・標主体であるため破砕部内物質の名称及び破砕度区分を変更した ・表現の適正化(軟質⇒軟質) ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	47.47	47.89	
159	47.86	47.89	(破砕度区分)Hc-2	47.86	47.89	(破砕度区分)Hb	・上記の記載に合わせて破砕度区分を変更した	47.86	47.89	
160	47.66	47.89	(変質欄)3ランク	47.66	47.89	(変質欄)4ランク	・変質の程度が強いため変質のランクを4ランクに変更した	47.66	47.89	
161	47.66	47.89	風化で割れ目の一部は消滅、ないし、消滅しかかっているが、50~60°の割れ目と低密着割れ目が残置し、一部で砂状化~白色、ないし、淡黄色(2.5Y 8/3)のやや硬質な粘土脈を挟む。また、各割れ目、低密着割れ目は軽微なマンガン鉱染受け黒褐色化する。	47.66	47.89	風化で割れ目の一部は消滅、ないし、消滅しかかっているが、50~60°の割れ目と低密着割れ目が残置し、一部で砂状化~白色、ないし、淡黄色(2.5Y 8/3)のやや硬質な粘土脈を挟む。また、各割れ目、低密着割れ目は軽微なマンガン鉱染受け黒褐色化する。	・表現の適正化(やや、挟む、固結⇒硬質な)	47.66	47.89	
162	47.89	48.30	風化で割れ目の一部は消滅、ないし、消滅しかかっているが、傾斜50~60°の割れ目と低密着割れ目が残置し、一部で砂状化~白色、ないし、淡黄色のやや硬質な粘土脈を挟む。また、弱くマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	47.89	48.30	風化で割れ目の一部は消滅、ないし、消滅しかかっているが、傾斜50~60°の割れ目と低密着割れ目が残置し、一部で砂状化~白色、ないし、淡黄色のやや硬質な粘土脈を挟む。また、弱くマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。		47.89	48.30	47.89~48.30m:風化で割れ目の一部は消滅、ないし、消滅しかかっているが、傾斜50~60°の割れ目と低密着割れ目が残置し、一部で砂状化~白色、ないし、淡黄色のやや硬質な粘土脈を挟む。また、弱くマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。

# H24-D1-5 48.30~54.00m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		上端深度	下端深度		記事
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		上端深度	下端深度		
163	48.30	48.61	硬さCと硬くなる。40°前後の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する20~30°も分布し、両者が交差する48.40~48.45mではφ5~10mmの岩片に細片化する。割れ目ぞいの砂状化は殆んどなく、粘土脈も分布しない。	硬さCと硬くなる。40°前後の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する20~30°も分布し、両者が交差する48.40~48.45mではφ5~10mmの岩片に細片化する。割れ目ぞいの砂状化は殆んどなく、粘土脈も分布しない。	・表視の適正化(扱い) ・表視の適正化(扱い)	48.30	48.61	48.30~48.61m:傾斜40°前後の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する20~30°も分布し、両者が交差する48.40~48.45mではφ5~10mmの岩片に細片化する。割れ目ぞいの砂状化は殆んどなく、粘土脈も分布しない。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
164	48.61	49.50	全体に割れ目が多くなり、コア形状Vである。40~60°割れ目が主体で、48.61~48.88mでは割れ目ぞいに砂状化しないし、φ2~5mm前後に細片化する。また、49.25m以深では40~60°割れ目と斜交~直交する20~30°割れ目と交差し、φ3~20mmの岩片に砂状化を伴って、細片化している。各割れ目は49.37m~40°で白色粘土が付着するのみで、これ以外に粘土化部や粘土脈は分布しない。	全体に割れ目が多くなり、コア形状Vである。40~60°割れ目が主体で、48.61~48.88mでは割れ目ぞいに砂状化しないし、φ2~5mm前後に細片化する。また、49.25m以深では40~60°割れ目と斜交~直交する20~30°割れ目と交差し、φ3~20mmの岩片に砂状化を伴って、細片化している。各割れ目は49.37m~40°で白色粘土が付着するのみで、これ以外に粘土化部や粘土脈は分布しない。	・コアに合わせてコア形状Vが見られる下端深度を変更した ・表視の適正化(扱い)	48.61	49.38	全体に割れ目が多くなり、コア形状Vである。40~60°割れ目が主体で、48.61~48.88mでは割れ目ぞいに砂状化しないし、φ2~5mm前後に細片化する。また、49.25m以深では40~60°割れ目と斜交~直交する20~30°割れ目と交差し、φ3~20mmの岩片に砂状化を伴って、細片化している。各割れ目は49.37m~40°で白色粘土が付着するのみで、これ以外に粘土化部や粘土脈は分布しない。	
165	49.25	49.38	(コアの硬さ欄)Dランク	(コアの硬さ欄)Cランク	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した	49.25	49.38	(コアの硬さ欄)Cランク	
166	49.38	49.50	(割れ目状態欄)Iランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)CL	(割れ目状態欄)IIランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CM	・コアに合わせて割れ目状態、コアの形状、コアの硬さの各ランクを変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した	49.38	49.50	(割れ目状態欄)IIランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CM	
167	49.50	52.75	硬さBと堅硬で、50~60°とこれらに斜交~直交する20~50°割れ目が主体で、同角の低密着割れ目も一部に分布する。	硬さBと堅硬で、50~60°とこれらに斜交~直交する20~50°割れ目が主体で、同角度の低密着割れ目も一部に分布する。	・コアに合わせて硬さBの上端深度を変更した ・表視の適正化(同角度)	49.38	52.75	49.38~52.75m:傾斜50~60°とこれらに斜交~直交する20~50°の割れ目が主体で、同傾斜の低密着割れ目も一部に分布する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
168	50.63	50.66	割れ目ぞいでは割れ目ぞいにφ3~10mmに細片化するが、砂状部や粘土化部は伴わない	割れ目ぞいでは割れ目ぞいにφ3~10mmに細片化するが、砂状部や粘土化部は伴わない	・文庫の適正化(割れ目ぞいではを削除) ・表視の適正化(扱い、様)	50.63	50.66	50.63~50.66m:割れ目ぞいにφ3~10mmに細片化するが、砂状部や粘土化部は伴わない。	
169	50.73	50.75	50~60°割れ目ぞいはやや赤色帯びる。	50~60°割れ目ぞいはやや赤色帯びる。	・品位の修正(50.75⇒50.85) ・表視の適正化(やや、扱い)	50.73	50.85	50.73~50.85m:傾斜50~60°の割れ目ぞいやや赤色帯びる。	
170	51.38	51.42	50~60°割れ目ぞいにやや軟化する(硬さC)が、粘土化や粘土脈ははさまない。	50~60°割れ目ぞいにやや軟質化する(硬さC)が、粘土化や粘土脈は挟まない。 51.38mの割れ目ぞいは砂状化する。	・表視の適正化(やや、扱い、軟質化、様) ・砂状部の挟在は周囲と異なる状態であるため追記した	51.38	51.42	51.38~51.42m:傾斜50~60°の割れ目ぞいにやや軟質化し、硬さCとなるが、粘土化や粘土脈は挟まない。51.38mの割れ目ぞいは砂状化する。	
171	52.17	52.17	50~60°でやや波打つ割れ目ぞい幅1~3mmの緑灰色化部あり(緑泥石化)。φ0.5mm以下の微細な金属鉱物が露出する	50~60°でやや波打つ割れ目ぞい幅1~3mmの緑灰色化部あり(緑泥石化)。φ0.5mm以下の微細な金属鉱物が露出する	・表視の適正化(やや、扱い)	52.17	52.17	52.17m:傾斜50~60°でやや波打つ割れ目ぞいが幅1~3mmで緑泥石化により緑灰色化し、径0.5mm以下の微細な金属鉱物が露出する。	
172	52.75	53.58	30~60°割れ目主体で、割れ目には砂状化部や粘土化部~粘土脈をはさまない。一部、微細なクランクが分布するが、密着度は高く、ハンマー打撃では分離しない。	30~60°割れ目主体で、割れ目には砂状化部や粘土化部~粘土脈は挟まない。一部、微細な割れ目が分布するが密着度は高く、ハンマー打撃では分離しない。	・表視の適正化(様) ・表視の統一(クランク⇒割れ目)	52.75	53.58	52.75~53.58m:傾斜30~60°の割れ目が主体で、割れ目に砂状化部や粘土化部~粘土脈は挟まない。一部、微細な割れ目が分布するが、密着度は高く、ハンマーの打撃では分離しない。	
173	52.91	52.91	50°幅2~4mm石英脈が母岩に密着して連続。一部、溶脱部を伴う。			52.91	52.91	52.91m:傾斜50°で幅2~4mmの石英脈が母岩に密着して連続する。一部、溶脱部を伴う。	
174	53.58	54.00	20~60°割れ目と一部で同方向の低密着割れ目も分布するが、一部では、ハンマーの打撃で低密着割れ目ぞいに分離~岩片化する。	20~60°割れ目と一部で同方向の低密着割れ目も分布するが、一部では、ハンマーの打撃で低密着割れ目ぞいに分離、岩片化する。	・表視の適正化(扱い、→)	53.58	54.00	53.58~54.00m:傾斜20~60°の割れ目と一部で同方向の低密着割れ目も分布する。一部では、ハンマーの打撃で低密着割れ目ぞいに分離、岩片化する。	
175	54.00	54.00	54mで検尺	54mで検尺	・コア観察の情報はないため削除した	-	-	-	



余白